

1 目指す学校像

○児童生徒が自己実現を達成できる教育を行う学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校

2 本年度の教育目標

一人一人の教育ニーズを適切に把握し、能力等適性に応じた教育により、持てる力を発揮し、社会参加に向け基礎的な知識・技能・態度・意欲を育む。

3 評 価 ※評価：A(目標以上の成果があった) B(おおむね目標が達成できた) C(5～6割程度の成果しか上げられなかった) D(C以下) ※アンケートの結果①そう思う②ややそう思う③あまり思わない④思わない⑤わからない

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	学校関係者評価	今後の課題
教育課程の改善	<p>＜教育課程の見直し＞                      ＜教科指導の重視＞                      ○国・数等を全課程に位置付け                      ○国・数等の指導内容の開発                      ○小中高一貫した取り組みの発信                      ○個別の指導計画の活用</p> <p>《関係機関との連携》                      ○療育福祉センター、看護師等との連携による安心・安全な学校づくり                      ○療育福祉センターのPT、ST、OTとの連携                      ○転入前、転出後の小・中・高等学校との連携                      ○体験入学、分校で遊ぼう等の取り組みの継続</p> <p>《コミュニケーション指導の強化》</p>	<p>○教科別指導を重視する。                      ◆国語・算数(数学)等の教科別指導を全課程に位置付けるための取り組み。                      ◆国語・算数(数学)等の指導内容を系統的に整理し、すべての児童生徒が学ぶ。</p> <p>○療育福祉センターと連携した取組やあり方について、年度当初から校内研修会や職員会議等で周知徹底を図り、より良い連携と信頼関係の構築につなげる。                      ○通園こじかと連携を密にして学校行事等を通して子庭園分校について知ってもらう。</p> <p>○コミュニケーションの指導の充実を図る。</p>	<p>○全ての類型の教育課程に国語、数学(算数)等の教科を位置付けるために実践的な取組を進め、学期毎に、各クラス、学部、学校全体で振り返りを行う。                      ○類型ごとの縦割り授業研究を行い、教科等の指導内容や方法について、学部を超えた実践交流を行う。                      ○個別の指導計画に各教科の目標を明記し取り組み、評価を丁寧に行い次学期、次年度に繋げる。                      ○夏季休業中の教育課程研究会において、本校、分校の取組についての情報交換を行い、2学期からの実践に活かす。                      ○年度当初の組織職員会で療育福祉センターとの連携についての基本的な姿勢を確認する。                      ○療育福祉センターのリハビリ担当者と担任が連携し自立活動の指導の向上に繋げる。                      ○月1回開催している四者連絡会(病棟、リハ、通園、分校)を継続して行い、児童生徒の情報共有や課題についての協議を深める。                      ○療育福祉センターのリハビリ担当者と担任が年度当初やリハビリの時、また、病棟看護師との担当者会で児童生徒の学校の様子を共有し、よりよい支援につなげる。                      ○コミュニケーションについての研修を開催する。</p>	<p>○教育課程検討委員会において、来年度のI類型に算、国を導入することを進めることができた。                      ○コミュニケーションについて、類型ごとに児童生徒および教員の課題と目指す姿について共通理解を図ることができた。                      ○療育福祉センターのリハビリ担当者と担任が連携し自立活動の指導の向上に繋がった。                      ○県の自立活動充実事業を活用することで児童生徒の支援の幅が広がった。                      ○本年度の研究テーマに、「コミュニケーションの指導」を設定したことで、授業のみならず生徒会を中心にした「あいさつ運動」等で児童生徒のコミュニケーション力を高めることができた。</p> <p>(1)授業について…教職員①19.0%②57.2%③9.5%④4.8%⑤9.5%                      (2)個別の指導計画等について…教職員①9.5%②61.9%③14.3%④4.8%⑤9.5%                      (3)療育福祉センターとの連携について…教職員①33.3%②47.6%③4.8%④4.8%⑤9.5%                      (4)コミュニケーションの指導について…教職員①23.8%②71.4%③0%④4.8%⑤0%                      (8)小中高一貫した系統性のある取組について…教職員①4.8%②42.8%③38.1%④9.5%⑤4.8%                      (10)卒業後を見ずえた指導・支援について…教職員①19.0%②47.6%③28.6%④0%⑤4.8%</p>	<p>(教科別指導の重視)                      (1)授業について…保護者①77.0%②15.4%③3.8%④0%⑤3.8%                      児童①37.5%②37.5%③25%④0%⑤0%                      生徒①42.9%②42.9%③0%④0%⑤14.2%                      (2)個別の指導計画等について…保護者①69.2%②19.2%③3.8%④0%⑤3.8%                      児童…①75%②12.5%③12.5%④0%⑤0%                      生徒…①57.1%②42.9%③0%④0%⑤0%                      (自立活動の強化)                      (3)療育福祉センターとの連携について…保護者①57.7%②26.9%③7.7%④0%⑤7.7%                      児童…①50%②12.5%③0%④0%⑤12.5%                      生徒①85.7%②14.3%③0%④0%⑤0%                      (4)コミュニケーションの指導について…保護者①65.5%②26.9%③3.8%④0%⑤3.8%                      児童①87.5%②12.5%③0%④0%⑤0%                      生徒①71.4%②0%③14.3%④0%⑤14.3%                      (8)小中高一貫した系統性のある取組について…保護者①38.5%②19.2%③11.5%④3.8%⑤27.0%                      (10)卒業後を見ずえた指導・支援について…保護者①30.8%②26.9%③7.7%④7.7%⑤26.9%</p>	<p>・社会に開かれた教育課程の実現に向けて地域の人的・物的資源を活用した取組をさらに推進していく。                      ・教科指導について本校とも情報交換を行う等連携しながら取り組み、指導の向上につなげる。                      ・子どもたちの学びの連続性を確保するために今後も小中高の連携を行っていく。                      ・教育課程の編成についての基本的な方針が家庭と共有されるよう努める。</p>
	<p>主体的・対話的・深い学びの推進</p>	<p>○主体的な学びを推進する。                      ○対話的な学びを推進する。                      ○深い学びを追究する。                      ◆3つの視点での授業が行われているか、授業評価の観点を明確にし、授業改善に取り組む。</p>	<p>○本校・分校合同の授業改善チームを作り「いい授業をしよう!～主体的で対話的な深い学びの追究～」に取り組み、授業参観・改善のポイントを全校で共有していく。                      ○全クラスが、主体的・対話的で深い学びを意識した公開授業を年間1回以上行い、参観者のコメントシート等を参考に、授業改善に取り組む。</p>	<p>○評価規準会を通して、主体的で対話的な深い学びの視点を具体的に挙げる事ができた。                      ○個別の指導計画、支援計画について校内で共通理解を行い、指導の一貫性を確認することができた。                      ○授業改善チームによる、授業参観、協議を重ね授業改善のポイントを明記した「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート(案)」を作成した。</p> <p>(5)主体的・対話的な授業づくりについて…教職員①14.3%②57.1%③19.0%④4.8%⑤4.8%</p>	<p>(5)主体的・対話的な授業づくりについて…保護者①69.3%②26.9%③0%④0%⑤3.8%                      児童①75%②12.5%③12.5%④0%⑤0%                      生徒①71.4%②0%③14.3%④0%⑤14.3%</p>	<p>・授業の「振り返りシート」の重要性を教職員に周知徹底することが不十分であり、PDCAのC(チェック・評価)と、A(アクション・次の手立て)に課題が残った「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート(案)」を校内で周知し、シートの活用を進めることにより、授業改善の取組を推進する。</p>
文化・芸術・スポーツの振興	<p>○文化、芸術を推進する。                      ◆文化・芸術に関連した学習及び社会参加の一層の推進を図る。                      ○障害者スポーツを振興する。                      ◆体育に障害者スポーツの競技種目を取り入れ各種大会に参加する。                      ◆ポッチャ等の障害者スポーツを関係機関と連携して振興を図る。</p>	<p>○文化・芸術の推進とスポーツの振興に関連した行事、校外学習を企画、実施する。                      ○文化、芸術に関する作品展等に積極的にエントリーしていく。                      ○体育に障害者スポーツ大会の種目やポッチャ等の種目を取り入れる。                      ○外部の事業を活用し、生涯を通じて文化・芸術・スポーツに親しめる活動を取り入れることが出来た。</p>	<p>○体育の授業にポッチャを取り入れて取り組むことができた。                      ○ポッチャ大会等で他校の児童生徒とふれあう等活動の幅が広がった。                      ○校外学習にも積極的に芸術に触れる機会を設け、授業に活かすことができた。                      ○外部の事業を活用し、生涯を通じて文化・芸術・スポーツに親しめる活動を取り入れることが出来た。</p> <p>(6)美術作品等の制作活動について…教職員①19.0%②76.2%③4.8%④0%⑤0%                      (7)スポーツ活動の推進について…教職員①14.3%②61.9%③23.8%④0%⑤0%</p>	<p>(6)美術作品等の制作活動について…保護者①61.5%②30.8%③0%④0%⑤7.7%                      児童①100%                      生徒①57.1%②28.6%③0%④0%⑤14.3%                      (7)スポーツ活動の推進について…保護者①57.7%②30.8%③0%④0%⑤11.5%                      児童①87.5%                      生徒①71.4%②14.3%③0%④0%⑤14.3%</p>	<p>・障がい者スポーツ大会に参加して児童生徒の競技力向上に努める。</p>	